

# 特別支援学級（知的、自閉・情緒）音楽科学習指導案

日 時 平成30年11月19日（月）

## 1 題材名 「言葉でリズムアンサンブルをつくろう」

### 2 生徒の思いや願いと本単元の意図

#### （1）生徒の実態

音楽活動については関心が高く、表現の領域においては歌唱・器楽ともに意欲的に取り組んでいる。しかし、生徒の音楽環境や音楽経験の差は大きく、ピアノを習っている生徒や音楽リズムゲームを楽しむ生徒もいるが、音自体が苦手な生徒や音楽を全く聴かない生徒がいる等、実態は様々である。特に自閉的な傾向が強い生徒については、動画共有サイトを好み、ボカロの曲については何度も繰り返し聴く様子が見られる。知っている曲については受け入れて活動に取り組めるが、知らない曲や新しい曲に取り組むことは難しい場合があり、一人一人の様子を細かく観察しながら授業を進めることが大切である。

創作活動については、苦手意識が強い生徒が多い。特に経験が少ない活動であるため、模倣活動や既習事項を織り混ぜながら創作活動への抵抗を軽減できるように工夫し、音やリズムから音楽をつくる楽しさを味わわせたい。

#### （2）題材観

中学生の音楽2・3上（P30）を参考にして、身近な言葉を用いてリズムアンサンブルをつくる活動を行う。

リズム演奏ではなく、声を使って表現することで複雑な操作性の心配がなく、どの生徒も取り組みやすい。また、リズム表現ではあるが、音符ではなく身近な言葉を用いることで、生徒が安心して取り組むことができ、表現の工夫や発想豊かな表現に繋がると考える。

#### （3）指導観

リズム模倣やリズム演奏については馴染みがあるが、創作活動についてはあまり経験がないために取り組み難い生徒が多い。生徒が自信をもって取り組めるように、活動の見通しがもてる工夫を以下のように行う。また、生徒自身が表現したいものをイメージして形にできるようにT.T.の支援体制を効果的に使っていきたい。

また、友達とアンサンブルをつくる中でリズムの重なり合いを味わわせ創作活動を楽しませたいと考える。

#### ①手順

リズムアンサンブルをつくる手順を初めに示し、活動内容を理解できるようにする。また、作成メモは毎回同じ形式を用いて活動を理解できるようにし、手順や活動を一つ一つ区切って確かめる時間を設定して確実に創作活動を進められるようにする。作成メモは、楽譜や形式にとらわれずに言葉やリズムアクセント等を具体的に記入できるようにし、支援する。記入することが難しい場合や即興で出てきたリズムについては、T.T.の支援体制を生かし、常に教員が注意深く観察して適時に評価したり代弁したりして生徒の表現したいイメージや心情をできるだけ明確にして、表現することを大切にしたい。

#### ②グループ学習

グループでパートを担うところから始めて、対1、対4とスモールステップでグループを広げていくことで、安心して取り組み、リズムや音の重なりを確実に捉えられるようにする。また、友達と一緒にすることで、様々なリズムの組合せや面白さ、特徴を味わうことができると考える。グループ活動を通して、自分の思いや意図、心

情をお互いに伝え合ってよりよいものをつくろうという気持ちを高めさせたい。自分なりに工夫するところから始めて、音を生み出す楽しさのきっかけにしていきたい。

### ③ICTの活用

録音・録画機器を使用して作品を振り返ったり、いろいろと試したりしながら自分の気に入った表現ができるようにする。生徒によっては自分のパートを演奏することが精一杯のことがあるため、アンサンブルのよさや自分の作品のよさに気づくきっかけにしたい。また、初めの作品と回を重ねた作品を聴き比べて表現の幅を広げたり、達成感を味わわせたりして自信を高めさせたい。

## 3 既習事項との関わりについて

### ○二部合唱「ビリーブ」：（本題材：リズムの重なり合いを味わう）

自己流ではなく自分の役割（パート）を意識して表現活動を行うことができるようになった。また、伴奏や回りの声を聴いて合わせる技能を身に付けることができてきた。

### ○リズムパターンゲーム：（本題材：リズムの理解、即興やリズムのもとをつくる）

模倣や簡単な楽譜の演奏活動により、様々なリズムパターンやその表現方法を身に付けることができてきた。リトミックの特徴的なリズムの読み方を工夫することで、リズムパターンをはっきりと正確に演奏できるようになってきた。簡単な楽譜を読んだり、自分の思いに合ったリズム表現をしたりする力が高まった。

### ○指揮者になろう：（本題材：拍子（条件）を意識する）

4拍子については、曲を聴き取って全員が確実に振れるようになった。拍子感やフレーズ感を少しずつ身に付けることができてきている。

### ○鑑賞「ケチャ」（本題材：リズムの重なり合いを味わう）

メロディのないリズムパートの重なりを味わう。それぞれのパートの重なりや特徴に気付くことができた。

## 4 題材の目標

○音づくりについて、音遊びを通して音の面白さやに気付いたり、どのように音楽をつくるかについて思いをもち、知識や技能を得たり生かしたりする。

○いろいろな声や言葉の響きの特徴が生み出す面白さを味わいながら表現活動を工夫する。

○協働して音楽活動を行う楽しさを味わう。

## 5 指導計画（生徒の様子に応じて検討、授業評価を行う。）

○基本的には課題を継続して行っていくが、その日の生徒の様子に応じて内容は変更していく。

○個別の指導計画、支援計画をもとに指導計画を行い、実践、評価、改善を繰り返して行っていく。

時	学習内容	目標
1	・リズム遊びをする。 ・リズムパターンの模倣ゲームをする。	・いろいろな言葉についての響きの特徴やリズムパターンの特徴を聴き分ける。
2	・言葉でアンサンブルをする。 （題材：サラダ・おでん・4拍）	・（指定の）言葉をいろいろなリズムで発声する。
3 4	・チームで言葉のアンサンブルをする。 ①（題材の選択と役割を決める）	・設定した条件について、リズムを組み合わせ合わせて簡単な言葉のリズムを工夫する。
5	・チームで言葉のアンサンブルをつくる。 ②（題材に合った言葉とリズムを工夫をする）	・自分の役割を意識して表現する。 ・リズムの重なりの特徴や楽しさを味わいながら、自分なりに表現する。

6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンサンブルを仕上げる。</li> <li>・発表会を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに聴き合いながら、言葉の重なりを工夫し、自分の思いに合わせて表現する。</li> <li>・リズムの特徴や重なり合いの面白さ等を理解して工夫し、表現する。</li> </ul>
-------------	---	--

## 6 指導と評価に関する計画

○個別の指導計画、個別の支援計画を参照（学期ごとに作成）

## 7 本時の学習

### （1）本時の目標

#### 【共通目標】

○声や言葉の響きの特徴が生み出す面白さやリズムの重なりを味わいながら表現活動を工夫する。

○リズムパターンや重なり合いを生かして、自分の思いに合わせて表現する。

○チームの友達とお互いに聴き合いながらアンサンブル行う楽しさを味わう。

#### 【個別目標】

生徒	目標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な言葉を選び、日本語の発音やリズムを意識して表現活動を行う。</li> <li>・自分の表現ができるように、教員と一緒に表現したいリズムを確認してからアンサンブルを行う。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の表現を聴きながら、どうしたら面白い響きになるかを考えて表現活動を工夫する。</li> <li>・自分の行いたい表現ができるように、丁寧にリズムを確認する。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の声や全体の演奏に興味・関心をもち、自分の声を調和させようとする。</li> <li>・自分なりのリズムで表現活動をする。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の声や全体の演奏に興味・関心をもち、自分ルールではなく、条件に基づいて表現活動をする。</li> <li>・様々なリズムを確かめながら自分の表現したいリズムを探す。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の表現を聴きながら、どうしたら面白い響きになるかを考えて表現活動を工夫する。</li> <li>・アンサンブル中に友達と一緒にリズムにつられないように丁寧に練習する。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に気持ち向けて、一言でも自分なりのリズムを表現する。</li> <li>・友達の表現に注目して聴く。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の外であっても、友達の学習の様子を見たり聴いたりすることができる。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の表現を聴きながら、どうしたら面白い響きになるかを考えて表現活動を工夫する。</li> <li>・リズムの重なり合いを意識して、自分の思いや意図に合わせて表現する。</li> </ul>
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件を確認してリズムを選択したり、組み合わせたりして自分なりに表現する。</li> <li>・自分の表現だけでなく、友達の表現方法に興味・関心をもって取り組むことができる。</li> </ul>
J	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っているリズムパターンや友達を模倣して自分なりに表現する。</li> <li>・友達と一緒に活動することができる。</li> </ul>
K	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別室ではあるが、教員と活動することができる。</li> <li>・小さい声であっても自分なりに表現できる。</li> </ul>
L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っているリズムパターンや友達を模倣して自分なりに表現する。</li> <li>・友達の表現に注目して聴き、タイミングを合わせる。</li> </ul>
M	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動に気持ちが向けられるかどうか、本人が意思表示することができる。</li> </ul>
N	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の表現を聴きながら、どうしたら面白い響きになるかを考えて表現活動を工夫する。</li> <li>・リズムの重なり合いを意識して、自分の思いや意図に合わせて表現する。</li> </ul>
O	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の声や全体の演奏に興味・関心をもち、自分ルールではなく、条件に基づいて表現活動をする。</li> <li>・様々なリズムを確かめながら自分の表現したいリズムを探す。</li> </ul>

P	・友達の声や全体の演奏に興味・関心をもち、自分ルールではなく、条件に基づいて表現活動をする。
Q	・友達の声や全体の演奏に興味・関心をもち、自分の声を調和させようとする。 ・自分ルールではなく、条件に基づいて表現活動をする。
R	・リズムの重なり合いを意識して、自分の思いや意図に合わせて表現する。 ・友達の表現を受け入れて、自分の意見と調和させる。
S	・友達の表現を聴きながら、どうしたら面白い響きになるかを考えて表現活動を工夫する。 ・友達の表現に注目して聴き、タイミングを合わせる。
T	・友達の声や全体の演奏に興味・関心をもち、自分の声を調和させようとする。 ・自分なりのリズムで表現活動をする。

## (2) 本時の評価

### 【共通評価】

- 声や言葉の響きに注目して、構成の特徴やリズムの重なりを意識して表現活動を工夫できたか。
- リズムパターンや反復・変化等の工夫を生かして自分の意図に合わせて表現できたか。
- チームの友達とお互いに聴き合い、自分からアンサンブルに取り組むことができたか。

### 【個別の評価】

生徒	目標
A	・身近な言葉を選び、日本語の発音や言い回しを意識して表現できたか。 ・教員と一緒にリズムを確認してからアンサンブルを行い自分なりに表現できたか。
B	・友達の表現に注目して、どうしたら面白い響きになるかを考えられたか。 ・リズム練習を行い、自分の意図した演奏ができたか。
C	・友達の声や全体の演奏に興味・関心をもち、自分の声を合わせようとしたか。 ・自分なりに工夫して表現活動ができたか。
D	・友達の声や全体の演奏に注目して、自分ルールではなく、条件を意識して表現活動ができたか。 ・リズムパターンや模倣活動を生かして、自分の表現したいリズムを探せたか。
E	・友達の表現を参考に自分のパートを工夫して表現活動ができたか。 ・アンサンブル中に友達と一緒にリズムにつられずに自分なりに表現できたか。
F	・気持ちを切らさずに、一言でも自分なりにリズム表現できたか。 ・友達の表現に注目して聴くことができたか。
G	・教室の外であっても、学習の様子を見たり聴いたりすることができたか。
H	・友達の表現を参考に同じ表現にならないように工夫することができたか。 ・リズムの重なり合いを意識して、自分の思いや意図に合わせて表現できたか。
I	・自分ルールではなく条件を意識して表現活動ができたか。 ・友達発表の様子に注目することができたか。
J	・知っているリズムパターンや友達の演奏を参考にして自分なりに表現できたか。 ・自分一人ではなく友達と一緒に活動することができたか。
K	・別室ではあるが、教員と活動することができたか。 ・小さい声であっても自分で考えたリズムを伝えることができたか。
L	・知っているリズムパターンや友達の演奏を参考にして自分なりに表現できたか。 ・友達の表現に注目して聴き、タイミングを合わせることができたか。

M	・音楽活動に気持ちが向けられるかどうかを教員に伝えることができたか。
N	・友達の表現を参考に、同じ表現にならないように工夫したり、アンサンブルの響きを意識することができたか。 ・リズムの重なり合いを意識して、自分の思いや意図に合わせて表現ができたか。
O	・友達の声や全体の演奏に注目して、条件に基づいて創作できたか。 ・リズムパターンや今までの表現を生かして自分の表現したいリズムが見つかることができたか。
P	・友達の声や全体の演奏に注目して、条件に基づいた表現活動ができたか。
Q	・友達の声や全体の演奏に注目して、自分から声を合わせようとしたか。 ・自分ルールではなく、条件に基づいて表現を工夫できたか。
R	・様々なリズムの重なり合いを生かして自分の思いや意図に合わせて表現できたか。 ・友達の表現を受け入れながら自分の思う表現活動ができたか。
S	・友達の表現に注目して、響きの変化を意識しながら表現活動を工夫できたか。 ・友達とタイミングを合わせてアンサンブルができたか。
T	・友達の声や全体の演奏に注目して自分の声を調和させようとしたか。 ・リズムパターンや友達のリズムを参考にして自分なりの表現活動ができたか。

## 7 展開（別紙参考）

\*別紙

8 (3) 展開 (個別の展開は記載しない)

時間	学習内容	学習活動	学習活動の支援・指導の留意点	備考
2分	○集合  ○あいさつ	○机・椅子を準備し、指定された席に座る。  ○音楽係の号令に合わせて挨拶をする。	○ ・チャイムに注目できるように促す。 ・自分たちで準備方法を思い出せるように、必要に応じて生徒同士で気付いたことを声かけするように伝える。 ○ ・正面に立ち姿勢の模倣を促す。 ・授業が始まることを伝え、号令に注目できるように促す。 ☆落ち着けない場合には個別の活動を入れる等、心理的な安定を図る状況対応を行う。	椅子×20 机×5
3分	○本日の学習の確認	○黒板を見たり、教員の話の聞いたりして自分の取り組む課題を確認する。	○ ・活動内容を思い出せるように黒板への注目を促したり、ジェスチャーで伝えたりする。 ・活動に見通しをもてるように、必要に応じて活動の順番を一緒に確認する。	フリップ
5分	○声出し	○「しりとりロックンロール」口の開け方や発音を意識して発声練習を行う。  ○コール&レスポンス活動を行う。 (リズム模倣)	○ ・「声出しするよ」の声かけを行うとともに、生徒の顔を一人ずつ確認して、歌う姿勢を準備できるようにする。 ☆口の開け方や声の様子を観察して、必要に応じて口の形を見せたり声をはっきりと声を出したりして模倣を促す。 ・できた時はその場で評価し、活動に気持ちを向けられるようにする。 ○ ・例を示す時は、悪い例を控えて良いイメージをもてるようにする。 ・なるべく生徒からの表現を大切に、生徒同士のやりとりができるように調整する。 ・どのような音符やリズムパターンを使用しているかが理解できるように、黒板に音符とリトミックの発音で示す。	P F スピーカー
25分	○創作活動	○創作メモをもとに、自分の役割を確認する。	○ ・題材の確認と、自分の考えた言葉やリズムを丁寧に確認するように促す。 ☆自分のリズムを忘れてしまった場合には、必要に応じて録音されたものを聴いて確認する。 ・前回のリズムにこだわらずに必要なに応じて対応する。 ・新しいリズムが浮かんだ場合には、生徒が本当に表現したいものかどうか丁寧にやりとりして確認する。	メロノム i P a d T V プリント

		<p>○グループ練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当リズムの練習</li> <li>・アンサンブルの練習</li> </ul>	<p>○</p> <p>☆自分のルールを強要している場合には、教員が入って適切な関わりを示したり、ルールや条件を意識できるように声をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒からの表現を引き出せるように、発言内容やリズムを確認して本人の意図に近い表現と一緒に探っていく。</li> <li>・生徒同士のやりとりを大切に、本人の表現だけでなくグループとしての表現づくりができるように促していく。</li> <li>・必要に応じて生徒の言葉を、簡単な言葉にしてグループの友達に代弁する。</li> <li>・練習中も作品を録音するように促し、構成や音の重なり方を確認できるようにする。</li> </ul>	
10分	○発表会	○グループで創作したリズムアンサンブルを発表する。	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループの演奏に注目できるように、声かけ等で促す。</li> <li>・必要に応じて聴く時のルールを示す。</li> <li>・よかったところ、気付いたところをメモできるようにして、自分の表現との違い等に気付けるようにする。</li> </ul>	
5分	○振り返り  ○挨拶	○今日の活動を振り返る。  ○号令に合わせて挨拶をする。	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒からの感想を聴き、気付いたことを共有できるようにする。</li> <li>・よくできたところを具体的に伝え合い、評価を行う。</li> </ul> <p>○号令に合わせて挨拶できるように、音楽係に注目するように声をかける。</p>	